



気をつけよう！感染症（令和8年第8号）

令和8年7月22日発行
松本市保健所保健予防課

夏に流行する感染症に注意

夏に多く発生する感染症は「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」「RSウイルス感染症」などです。
6月頃から子どもを中心に患者数が増えはじめ、7～8月にピークとなります。

	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	RSウイルス感染症
感染経路	接触感染・飛沫感染			
症状	・口の中、手のひら、足底や足の甲などに水疱を伴う複数の発しん ・発熱 (38度以下のことが多い)	・突然の発熱 ・のどの痛みや水疱 ・食欲不振 ・全身のだるさ ・頭痛	・4～5日続く38℃以上の発熱 ・のどの痛み ・目の充血、目やにが出るなどの結膜炎症状	・発熱、鼻水、咳 ・喘鳴や呼吸困難が現れることもある
ウイルス排出期間	呼吸器からは1～2週間 便からは数週～数か月		便からは数か月	通常3～8日
詳しくはこちら (厚生労働省ホームページ)	手足口病 	ヘルパンギーナ 	咽頭結膜熱 	RSウイルス感染症 

予防のポイント

○手洗い、うがいをしっかりしましょう

- 外から帰った後や食事の前、トイレの後などの手洗い、うがいを心がけましょう。
- 症状が落ち着いた後も、患者の便からはウイルスが排泄されます。トイレの後やオムツ交換の後の手洗いを徹底しましょう。

○タオルの共有は避けましょう



治療方法は？

- 発熱やのどの痛みなどのつらい症状を和らげる対症療法が中心です。自宅で安静に過ごしましょう。刺激の強い食べ物や熱い物は避けるようにしましょう。
- 症状が悪化した場合は、医療機関を受診しましょう。
- 脱水症予防のため、こまめに水分や塩分をとりましょう。

こちらも確認



[夏を安全に楽しもう！感染症対策ガイド\(月刊厚生労働2024年7月号\)](#)

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/202407_003.html